

# 各地の お盆

8月に入り、本格的に暑さが厳しくなってきましたね。気付けばもうすぐお盆!!そこで今回は各地の特徴あるお盆の風習について紹介いたします!



**島根県隠岐の島（島後）**  
精霊流し  
島の初盆の家が、帰ってきた故人を再び送り出すために、**精霊船（お刺身の船盛のようないくつぼね**の木製の船）にお供え物や、ナス、きゅうりで作った動物などを入れて、沖合いに流す風習。一軒に一隻の船ではなく、初盆の人たち皆で大きな共同の船を用意して流す地区もあります。



**沖縄県**  
ウチカビ  
お盆になるとあの世で使うお金「ウチカビ」を用意します。燃やすれば燃やすほど先祖があの世で使うことが出来るお金が増えるそうです。



**長崎県長崎市**  
精霊流し  
精霊船を流す間、**大量の爆竹を鳴らす風習**があり、当社はお祭りのような騒がしさになるそう。爆竹以外にもロケット花火や手持ちの花火をお墓で行う風習もあるそうです。



そこで、母親を救う方法をお釈迦様に相談したところ、お釈迦様は「お前が多くの人に施しをすれば母親は救われる」と言されました。お釈迦様の教えに従って夏の修行期間のあける7月15日に多くの僧たちに飲食料をささげて供養したのです。するとその功德によって母親は、極楽往生がとげられました。それが、7月15日、もしくは8月15日にお盆をするいわれなのです。

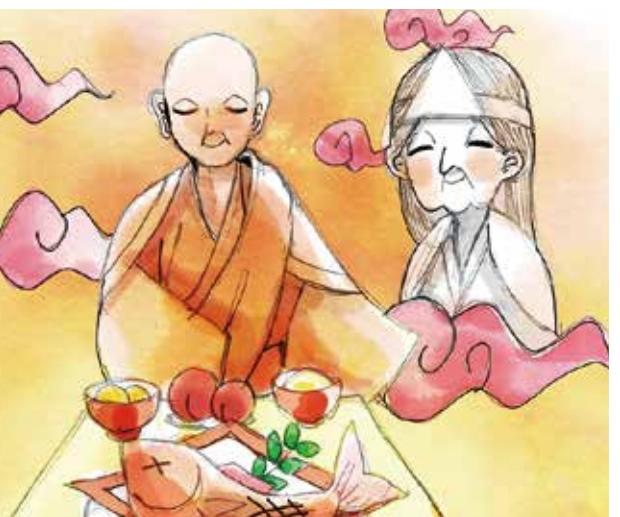
お盆は祖先の靈と一緒に過ごす日本良き風習であり、親戚が集まる大切な機会もありますね。



**広島県福山市**  
盆踊り  
家の玄関で、わらを燃やし、先祖の靈を迎える。



**広島県の離島**  
盆踊り  
初盆を迎えた人の遺影を遺族の方々が順番に背負って、死者供養をするという珍しい盆踊り。



**お盆のいわれ**  
お盆の慣わしというと、家元に親戚が集まり、僧侶を招いて飲み物や食べ物を施して、先祖の供養をします。諸説ありますが、これは仏教の「親孝行の大切さ」を説いた教えが元となっているそうです。  
ある時、**目連尊者**(お釈迦様の弟子)が、亡き母親が餓鬼道(飢えに苦しむ世界)に落ち、苦しんでいる事を知りました。